

事業コード	H18-農-新-1		区 分	国庫補助	県単独
事業名	ほ場整備事業(担い手育成型)実施計画		部局課室名	農林水産部 農山村振興課	
事業種別	ほ場整備		班 名	農村整備計画班 (tel) 018-860-1855	
路線名等	鹿角市		担当課長名	佐藤 充	
箇所名	高屋		担当者名	佐藤 暢芳	
総合計画との関連	政策コード	N	政 策 名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興	
	施策コード	04	施 策 名	新時代に躍動する多様な農業経営体の育成	
	指標コード	05	施策目標(指標)名	ほ場整備率	

1. 事業の概要

事業期間	H19 ~ H24 (6年)		総事業費	4.5億円	国庫補助率	50%	
事業規模	区画整理A=24ha (戸数 51戸)						
事業の立案に至る背景	現在、稲作を中心にリンゴ、桃等を組み入れた複合経営を実践しているが、地形条件等から安定した農業経営とはいえず、また、担い手の減少、高齢化の進展等地域の実情は厳しいものがある。このため、将来計画を見据え、早くから集落一体となった経営を模索しており、集落での作業分担化により、果樹と地域特産のキュウリ、トマトを組み合わせた複合経営の強化を図り、収益の確保に資するよう、ほ場整備要望につながった。また、当地区の現状は、不整形かつ狭小であり、農道は狭小で作業効率が非常に悪い他、用水排水兼用の土水路であり法面崩壊を起こしやすく、泥上げや雑草除去の維持管理に難渋しており営農条件は劣悪である。						
事業目的	農地の流動化を促進し、効率的な農業生産体制を構築する。 用排水路分離による乾田化を図り、多様な営農形態(トマト、キュウリ、枝豆等)に対応する。 集落営農の展開により、耕作放棄地の防止を図る。 農地の大区画化、道路・用排水路の整備等により、農作業時間の短縮、営農経費の縮減を図る。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度以降
	事業費		443,000	20,000	87,600	87,600	247,800
	経費内訳	工事費	354,000		67,600	72,600	213,800
		用補費	15,000		5,000	5,000	5,000
		その他	74,000	20,000	15,000	10,000	29,000
	財源内訳	国庫補助	221,500	10,000	43,800	43,800	123,900
		県 債	88,600	4,000	17,520	17,520	49,560
その他		88,600	4,000	17,520	17,520	49,560	
一般財源		44,300	2,000	8,760	8,760	24,780	
事業内容		面積 24ha	実施設計 N=1式	区画整理 A= 5ha	区画整理 A= 7ha	区画整理 A= 12ha	
調査経緯	・平成17年度 基礎調査(調査費1,000千円~県費 500千円、地元 500千円) ・平成18年度 農業農村整備実施計画調査 (調査費 3,000千円~国費 1,500千円、県費 600千円、地元 900千円)						
上位計画での位置付け	「新時代に躍動する多様な農業経営体の育成」を支援する事業						
関連プロジェクト等	なし						
事業を取り巻く情勢の変化	・米価の低迷、転作の拡大、農産物輸入による国産野菜の価格下落等が進展するなか、多様な消費者ニーズに対応した農産物の供給等が求められており、一層の農業生産コストの縮減を図ると共に、地域の担い手を育成し、地域間競争に耐えうる足腰の強い農業生産体制を構築する必要がある。						
事業効率把握の手法	指標名	評価箇所における担い手が経営する面積割合					
	指標式	地区内の担い手の経営面積÷ほ場整備地区面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	50%		データ等の出典	基盤整備関連経営体育成等促進計画書		
	達成値 b	76%					
達成率 b/a	152%		把握の時期	平成18年 7月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○本事業の目的は、基盤整備を契機とした担い手の育成であり、農業県である本県農業の将来を支える農業者の育成は県の積極的主体的関与が必要。 ○区画が未整理かつ農道が狭小なため、非効率な営農を強いられている。また、用排水路が土水路であるため、維持管理にも苦慮している。これら諸課題を総合的に解決する手段としては、ほ場整備事業が最も妥当。	13点
緊 急 性	平成19年度新規採択を目標に協議が行われ、高齢化、担い手不足から早くから集落営農を目指し、換地の準備、将来の営農の基礎となる区画の検討がなされるなど、受益者の事業に対する意欲は非常に高い。 小規模農家が多く、作業条件の悪さから後継者難となっている中、地域の担い手として営農を継続することは集落活性化や耕作放棄の抑止になる。	18点
有 効 性	○生産性の高い農業の実現が求められているなか、鹿角市では、農地の集積・生産組織や担い手農家の育成を図るため、「ほ場整備」を最優先課題とし、市の農業農村整備事業の実施計画を取りまとめた事業管理計画の中で、最優先事業として位置付けている。	26点
効 率 性	○単収増加効果、品質向上効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、更新効果等の効果が見込まれ、10aあたり事業費は、国が示す指標の200万円を下回っている。 投資効率 1.25	13点
熟 度	地域営農のあり方について集落ぐるみで協議を続けており、その実現に向けて鹿角市役所、JAかつの等の支援も受けている。 ほ場整備の区割りや配置、完成後の営農構想、隣接畜産組織との稲ワラと堆肥の交換による資源循環型農業の推進にも積極的に参画し、事業への取り組みが主体的である。	18点
判 定	ランク () 周辺が山と河川に挟まれた狭小な一団地という不利な条件ながら、集落一体となり複合経営を推進しようとする姿勢は同じような条件をもつ他地区の範となるものであり総合的な評価点は高い。	88点
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 地域での畑作や地区外にある果樹などを組み合わせた集落営農により、徹底した分業化による効率性の追求と収益の拡大を目指すなど、条件不利な地域にあって果敢な複合経営の推進は、評価できるものであり、本事業を実施すべきと考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
<p>当地区は、北限のモモ等を組み入れた複合経営を実践するなど地域特性を生かした農業を進めている。本事業の実施により、農地の76%をひとつの生産法人に集約し、余剰労力を果樹やトマトやキュウリなどに向けることが可能となり、収益性の高い農業経営の確立が見込まれることから、事業実施は妥当と判断される。</p>			

4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
<ul style="list-style-type: none"> ・稲作、リンゴ、桃等の複合経営を实践済み ・隣接する養豚組織と資源循環型農業を推進 ・事業による畑地率向上の目標値が高い <p>元々評価の高い野菜類の割合を高めることで高収益を期待でき、事業実施は妥当と考える。</p>			

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
<p>事業の実施は妥当である。</p>			

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> ・当該課所を国に新規地区として要望する。 ・事業実施に当たっては、コスト縮減に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

<p>県の評価及び対応方針を可とする</p>

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H18-農-新-1)

適用基準名 担い手育成基盤整備事業(区画整理型・高度利用型)

箇所名 (高屋)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性				
	あきた21総合計画における位置付け	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 1	5	
	受益面積(地域周辺への波及度)	100ha以上(中間地域の場合、50ha以上) 50ha以上100ha未満(中間地域の場合、20ha以上50ha未満) 50ha未満	5 3 1	3	
	労働生産性の現状	未整備地域である 整備済だが水路等の損傷が著しい 整備済で、水路等の損傷が見あたらない	5 3 1	5	
	計		15	13	
緊急性	事業未実施の影響				
	営農への支障状況	用水不足や排水不良等が全域で見られ支障をきたしている 用水不足や排水不良等が一部区域 営農への支障は特にない	5 3 0	5	
	応急対策の実施状況	施設の老朽化等により応急対策は日常化している これまでに応急対策を実施したことがある 応急対策を実施したことはない	5 3 0	5	
	受益者の高齢化状況	60歳以上の耕作者が40%以上で、後継者不足 60歳以上の耕作者が30%以上40%未満で、後継者不足 60歳以上の耕作者が30%未満	5 3 1	5	
	他事業との関連	他事業との関連	関連する他事業との調整で緊急性が高い 関連する他事業との調整が事業期間中に必要 関連する他事業との調整を必要としない	5 3 0	3
計		20	18		
有効性	上位計画への貢献度				
	市町村計画での位置付け	農業振興の中核を担う事業として位置づけされている 農業振興を担う施策に間接的に位置づけられている 特に位置づけられていない	5 3 0	5	
	期待される具体的効果				
	区画計画	地域の営農計画に促した区画計画が策定されている 地域の営農計画に促した区画計画が策定されていない	5 0	5	
	担い手への農地集積度	地区担い手への農地集積率が市町村目標より2割以上高い 地区担い手への農地集積率が市町村目標以上 地区担い手への農地集積率が市町村目標以下	5 3 0	5	
品目横断的経営安定対策との関連	対策への参加割合が受益面積の60%以上 対策への参加割合が受益面積の50%以上60%未満 対策への参加割合が受益面積の50%未満	5 3 1	5		
営農計画	新規作物及び新技術の導入がともに図られている 新規作物及び新技術の導入がどちらか一方図られている 新規作物や新技術の導入が図られず、現状と変わらない	5 3 0	3		
環境との調和への配慮状況					
環境保全への配慮	環境検討委員会を設置、環境保全への取組内容が十分 環境検討委員会を設置、環境保全への配慮を検討中 環境検討委員会が設置されていない	5 3 0	3		
計		30	26		
効率性	事業の投資効果				
	費用対効果	B/C=1.2以上 B/C=1.0以上~1.2未満 B/C=1.0未満	5 3 0	5	
	事業実施コストの縮減				
	コスト縮減計画	コスト縮減計画を策定、事業計画に反映 コスト縮減計画を策定するため、現在検討中 コスト縮減計画を特に検討していない	5 3 0	3	
	事業費単価	10a当たり事業費	県平均値以下 県平均以上、国で示す上限値未満 国で示す上限値以上	5 3 0	5
計		15	13		
熟度	地元の合意形成の状況				
	同意状況	全員の同意が得られている 未同意者が存在するが、事業実施に支障がない 未同意者が存在し、円滑な事業実施に支障がある	5 3 0	3	
	事業推進体制	事業推進組織が設立済で、活発な活動を展開 事業推進組織が設立済で、定期的に開催 事業推進組織が設立されていない	5 3 0	5	
	農地集団化推進団体の有無及び活動状況	現在、推進団体があり、活動している 推進団体はあるが活動していない 推進団体はない	5 3 0	5	
	事業推進のための各種協議の進捗状況	進捗状況(水利権、道路協議 林地開発、指定区域等)	必要な協議を終了しており、基本的事項が確認されている 協議中であり、合意が得られる見込みである 協議中であり、合意時期が未定である	5 3 1	5
計		20	18		
合計			100	88	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		